



11:35下降開始。ナメが続く。途中、倒木があり歩きづらい場所もあるが、全体的にはナメである。下降をはじめてから35分で左から沢を合わせる。2:3で右沢の方が水量が多い。右沢もまたナメである。右岸からルンゼが2本入る。それを過ぎると釜と小滝の連続する、比較的明るいゴルジュとなる。スケールは小さいが美しい。

ナメが終わり、広い河原となる。左岸のガレ場は大きくえぐられている。次に3mの滝が出てくる。右岸をアップザイレンで降りる。登りの時は右岸のバンドを利用して越えることができそうである。

30分程で4m、5mと滝が出てくるが、いずれもクライミングダウンで降りられる。13:15右俣と出合い、まもなく烏川に出る。下降到1時間50分を要した。

(記・ ㊦)

[タイム] 下降開始(11:35)→烏川(13:20)



赤沢左俣

1983年6月18日

13:00ワラジをつけて進行開始する。すぐに砂筋ダムが出てきた。沢登りをやっていると興をそがれるだけでなく、乗り越すにもやっかいなのがこのての人工の建造物である。ホールド、スタンスとなるようなものはまずないし、たいていは高捲く破目となる。ここでも左岸を捲いて上に出た。

この先はずっとナメになる。水量は少ないが、サン

ショウウオがいるところをみると濁れることはない流れのようだ。13:20左俣出合。今日の目標はこの沢だ。

まずは出会いすぐの5m滝を直登する。ホールドは結構あるのだが、一番上に来てシャワーとなり、おまけにコケですべるのには参った。その先すぐにまたの滝。左岸に試し縄をしたのではないかと思われる高さ1m程の坑道が口をあけている。直登できるかとも思ったが、今日は1人なので何となく不安となり左岸を捲く。

この上はナメが続く。しかし今までの礫を固めたような岩から、細かい砂粒を固めたような感じの岩へと岩質が変化した。どうという滝もかからないので、どんどん先へと進む。

14:20兩岸は松のまだ若い植林地(1979年植樹)となり、沢は藪の中の細い流れとなっているのを見て、右岸の尾根を目指す。尾根上にははっきりした踏跡があり、岩根部落へと続いていた。

(記)

[タイム] 赤沢出合(13:00)→左俣出合(13:20)→遊行終了(14:20)

赤沢右俣

1983年7月31日

L

国道399号が赤沢を渡る手前から流水路にそって道がある。そこを20分程進んで赤沢に降りる。遊行を開始するとすぐに左俣との分岐となる。水量は1:4で右俣の方が多い。断続的に続くナメを進み、取水口を乗り越えたと中俣との分岐に出る。中俣は調査が済んでいるので、右俣に入る。

右俣に入るとすぐ右岸に炭焼き小屋がある。次に左岸に千枚岩状岩壁がそびえたつ。中俣との出合からも見え、良い目印となる。さして変化もない沢だが、この岩場だけは迫力がある。

ガレ場の中にある3mの滝を越すと、沢床は泥状となる。少し進むとカレ沢となり、二俣に分かれる。右に入るとやがてルンゼが現われる。右のルンゼに入り、途中から左岸に登って稜線に出る。稜線には踏跡があり、果

